



# SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.17 2007.2



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

## 目次

	ページ
● イベント報告	
ビジネス・エコシステムにおけるイノベーションの創生	2
インスティテューショナル技術経営第二コロキウム	2
● コラム	
企業現場から見た SIMOT	3
● 学生の目	
SIMOT の人類史的意義	3
● イベント予定	
Workshop: “Institutional Innovation”	4
● 連絡先	4

東京工業大学では、21世紀COEプログラム「インスティテューショナル技術経営学 (SIMOT)」遂行の中核センターとして、「インスティテューショナル技術経営学研究センター (SIMOT リサーチセンター)」を設置いたしました。  
同センターの研究内容・活動を、広く内外に知っていただくことを目的に、毎月 SIMOT リサーチセンターニューズレターを刊行しております。

## ■ イベント報告 ■

### ビジネス・エコシステムにおける知識協創を通じたイノベーションの創生 (2007年2月13日 東工大)



研究・技術計画学会国際問題分科会 2月例会では、一橋大学 客員研究員 フローリアン・コールバッハ氏に「Harnessing Innovation through Knowledge Co-Creation in the Business Ecosystem」とのテーマでご講演いただきました。

講演では、まずナレッジ・エコノミーの観点から、知識・価値・イノベーションのダイナミクスについて、既存研究レビューなどを通じて解説されました。さらには、ナレッジ・エコノミーとビジネス・ネットワーク、ビジネス・エコシステムの関係についての議論を経て、日本企業の協創のケーススタディーを紹介され、グローバル経済下における「ビジネス・エコシステムにおける知識協創を通じたイノベーションの創生」の重要性について論じ、新しい企業間関係のあり方を提示されました。知の活用と創造は日本本来の強みであり、日本型技術経営学の革新を目指す SIMOT の研究にとって示唆に富んだ講演でした。



### インスティテューショナル技術経営第二 コロキアム (2006年1月25日, 2月1日 東京工業大学 西9号館)

SIMOT では、SIMOT 事業推進担当者による最先端研究紹介および内外ハイテク企業・官公庁の最先端のビジネス・行政に携わる特任教授による実経験紹介から構成される講義「インスティテューショナル技術経営第一、第二」を開講しております。本講義は、平成 17 年度の開講以来、世界的リーダー輩出を目的に、講義・議論ともに英語のみを用いて行われています。また、上記の学際的講義に加え、各期末には、コロキアムとして各受講生の研究成果を発表する時間を設けております。

今回のコロキアムでは、SIMOT 若手研究者 7 人を含む 12 名が発表を行い、それぞれの学生独自の視点から「イノベーションとインスティテューションの共進化」に対する解釈や適応を示しました。



[SIMOT 若手研究者による研究報告タイトル]

- 北原 知就: Toward the modeling of co-evolution between institution and innovation
- 荻久保 瑞穂: Customer Satisfaction and Life Satisfaction: Cross National Study of Cultural Influences
- 森山 幸司: The analysis of the bipolarization of profitability amongst Japanese high-technology firms
- Korrakot Yaibuathet: Perspective on Logistics and Supply Chain Management in Thailand
- Bjoern Frank: German Reunification – Implications for the Dynamism between Institutional Systems and Economic Performance
- 申 宰浩: Patent Analysis of Plasma TV between Japanese and Korean Companies
- 趙 偉琳: Who will be the Frontier in Next Software Outsourcing ? - A preliminary comparative analysis between India and China based on institutional systems



SIMOT とは・・・

SIMOTとは、「インスティテューショナル技術経営学 (The Science of Institutional Management of Technology)」の略称です。日本の技術経営が本来機能を回復するのを見据え、世界価値を創造するダイナミズムについての理論および方法論の探究を目指します。“サイモット”と呼称しています。

## コラム

### 「企業現場から見た SIMOT」

株式会社東芝 セミコンダクタ社 提携/戦略担当部長  
東京工業大学 SIMOT 特任教授、SIMOT リサーチセンター 員 **安田 洋史**



私が身をおいている半導体業界は競争環境がダイナミックに変化している。代表的な製品である DRAM は 1990 年代半ばまでは日本企業が非常に強い分野であったが、現在は三星、Hynex という韓国企業が市場をリードしている。しかし、その DRAM の最大のユーザーである PC 業界をみると Dell、HP という米国企業が、一方その DRAM を製造するための材料分野をみると信越や SUMCO という日本企業が圧倒的に強い。半導体の製造受託事業では TSMC や UMC という台湾企業の独壇場であり、半導体製造装置では ASML のような欧州企業が競争力をつけている。事業の一連のバリューチェーンの中で、グローバルな地域や国ごとに特徴的な競争優位性があることは興味深い。このような優位性を築き上げてきた企業をみると、その根源にはさまざまなイノベーション創出の過程があったことがわかる。イノベーションには事業のやり方を革新するプロセス・イノベーションと、新しい価値を創造するバリュー・イノベーションとがある。特に事業環境の変化と技術革新のスピードで特徴づけられるハイテク分野では、この二つのイノベーションが両輪となって初めて企業の持続的成長が可能となる。今、私の所属する企業ではこのようなイノベーションを次々と創出する仕組みや風土の構築を重点戦略と位置づけ、全社的プログラムを推進している。このような取り組みがこれからのグローバル競争の中で勝ち抜くための大きな原動力になる、と確信しているからである。イノベーションの創出に秀でた企業は成長し、それを可能とする環境を築きあげた国の産業が発展する。グローバルな競争環境の中での企業経営の現場は、まさにイノベーションとインスティテューションの共進ダイナミズムを日々追求する場であると言える。

## 学生の目

東京工業大学大学院社会理工学研究科  
経営工学専攻博士課程1年 北原 知就

### 「SIMOT の人類史的意義」

人類の発展の歴史を紐解いてみますと、活版印刷、産業革命時の蒸気機関、自動車、そして最近ではインターネットを始めとする情報技術などの例からもわかりますように、(1) イノベーション(革新的技術)の出現(2) そのインスティテューション(国家戦略・社会制度、企業組織・風土、時代背景を3軸とする近代社会の土台)への波及(3) 更なるイノベーションの出現、という大きな流れを見て取ることができます。インスティテューショナル技術経営学(SIMOT)では、このようなイノベーションとインスティテューションの間の相互作用を解明し、可視化、操作化できるようにすることで、世界的な価値にまで高めるということを目的としており、その意義は人類発展史的にも非常に大きなものです。

SIMOT の研究によって得られた知見を、実際の企業などの運営に役立てていくにはどうすればよいでしょうか? これらの活動は、「材料をどこから調達するか」などのような多くの意思決定から成っています。私は、これらの意思決定の問題を数理モデルなどを用いて合理的に解決するための「最適化」について研究しています。SIMOT では様々な若手研究者支援の制度があり、非常に充実した研究活動を進めることができます。このような恵まれた環境に感謝し、また自分の研究が SIMOT の進展に寄与できることを願いつつ、日々自己研鑽を重ねています。



## ■ 最近の動き ■

### ● 海外出張

渡辺 3月16日~23日 オーストラリア ウィーン国際応用システム分析研究所：IIASA  
(COE SIMOT 国際比較分析進捗結果検討)

## ■ イベント予定 ■

### 研究・技術計画学会 国際問題分科会 3月例会

日時 3月14日(水) 18:00~20:00  
場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室  
テーマ 「R&Dのグローバル化とそのインスティテューショナルな含意」  
インスティテューショナル技術経営学への示唆  
講師 ウルリヒ・ネアー氏 (マッキンゼー&カンパニー 東京支社 パートナー)

### H18年度後期 SIMOT RA 研究報告会

日時 3月26日(月) 13:15~16:30  
場所 東京工業大学 西9号館 311号室

### Workshop: "Institutional Innovation"

日時 3月27日(火)、28日(水)  
場所 東京工業大学  
テーマ Inter-Institutional Comparison  
参加者(予定)

	<b>Bing Zhu (朱兵)</b> 清華大学 産業エコロジーセンター 助教授		<b>Georges Haour</b> IMD (国際経営開発研究所:スル) 教授
	<b>Vinnie Jauhari</b> インド国際経営技術大学 教授		<b>Michael Obersteiner</b> IIASA (国際応用システム分析研究所) プロジェクト・リーダー
	<b>Ryzak Felicjan</b> Wroclaw University		

### ● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム  
「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51  
東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内  
西9号館 208B号室  
TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250  
Email: [nakane.m.aa@m.titech.ac.jp](mailto:nakane.m.aa@m.titech.ac.jp)  
URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>  
編集者: 菊池 隆